

笑顔を守りたい



会員 伊山 俊太郎

はじめに

笑顔を守りたい。これは、私が法曹を目指した理由である。

今回、リレーエッセイを書く機会をいただいたので、法曹になった理由も踏まえ、弁護士一年目を振り返ってみたい。

初めてのことだらけの日々

弁護士一年目は、初めてのことだらけの日々であった。

私が所属している法律事務所では、新聞の一面に載るような大きい事件（例えば、ベンチャーIT関連企業A社や大手精密機械器具メーカーのB社の粉飾決算に関する事件が挙げられる。）から他の弁護士なら受任しないような小さい事件（例えば、訴額が5万円に満たないような消費者問題が挙げられる。）まで、大小様々な事件を取り扱っている。

B社の粉飾決算に関する事件では被害者説明会を開催したり、記者会見を行ったりした。また、ある消費者問題に関する事件では、詐欺業者から被害金を回収したりした。逆に、別の消費者問題に関する事件では、相手方から「弁護士だから何やってもいいと思ってるんじゃないか。」などと怒鳴られた上、エレベータ内まで追いかけられたこともある。初めてのことで、本当に“アツ”という間の一年間であった。

法曹を目指した理由

「はじめに」で述べたとおり、笑顔を守りたいというのが、私が法曹を目指した理由である。これには二つ理由がある。まず、私が物心つく前に、親戚におきたトラブルを弁護士が解決してくれたことである。その親戚を含めて多くの人が笑顔になれたようだ。本当にあり

がたいことだと思う。次に、私が笑顔を見るのが好きだからである。私は小さいころから、人の笑顔を見るのが好きだった。笑顔を見ると、楽しいし、幸せな気持ちになれるからである。大学時代、法律相談部に入り、法律相談を受けた。話を聞いただけで、相談者の方の表情が和らぐことが多々あった。法律相談を続けるうちに、笑顔を守る仕事をしたいとより強く想うようになったのである。

弁護士になってみて

弁護士事務所に、心から幸せな方が来ることは珍しい。というのも、トラブルがあるからこそ相談に来るからである。

事件を解決できるという報告をすると、依頼者の方は自然と笑顔になる。暗い顔をされていた方が笑顔になって事務所を出て行かれるときや電話口から嬉しそうな声を聞くと、私はとても幸せな気持ちになる。やはり、弁護士という仕事はやりがいがある仕事だと強く感じるのである。

おわりに

私は、弁護士という仕事が好きである。確かに、きれいごとだけではすまない仕事であることは、この一年間で痛感させられた。しかし、笑顔を守ることができるときもあることも確認できた。より多くの笑顔に関われるようこれからも精進していきたい。

最後に、諸先輩方に対し、この場を借りて感謝の意を伝えたいと思う。今の私があるのは、多くの諸先輩方に支えられてきたからに他ならないからである。

本当にありがとうございました。私も、後輩たちに対し、しっかりと、法曹界のよき伝統を引き継いでいきたいと思えます。

*次号からは「65期リレーエッセイ」を掲載します。